

東駿河湾

東駿河湾都市圏パーソントリップ調査
(総合都市交通体系調査)

交通かわらばん

特集1 交通まちづくりに関する都市圏の現状

特集2 交通実態調査の結果概要



パーソントリップとは、人(パーソン)の動き(トリップ)を意味します。
『パーソントリップ調査』とは、どのような人が、いつ、どこからどこへ、
何の目的で、どのような交通手段で動いたかについて調査し、
1日の動きをとらえる交通実態調査で、概ね10年に1度実施しています。

パーソントリップ調査の概要

- 調査期間 : 平成27年12月、平成28年2月に実施しました。
- 調査対象圏域 : 東駿河湾都市圏を対象としました(右図)。
- 調査対象者と回収数 : 約28万世帯の中から無作為抽出された約8万世帯に調査票を郵送配布させていただき、そのうち約2万世帯(4万人)の方からご回答いただきました。

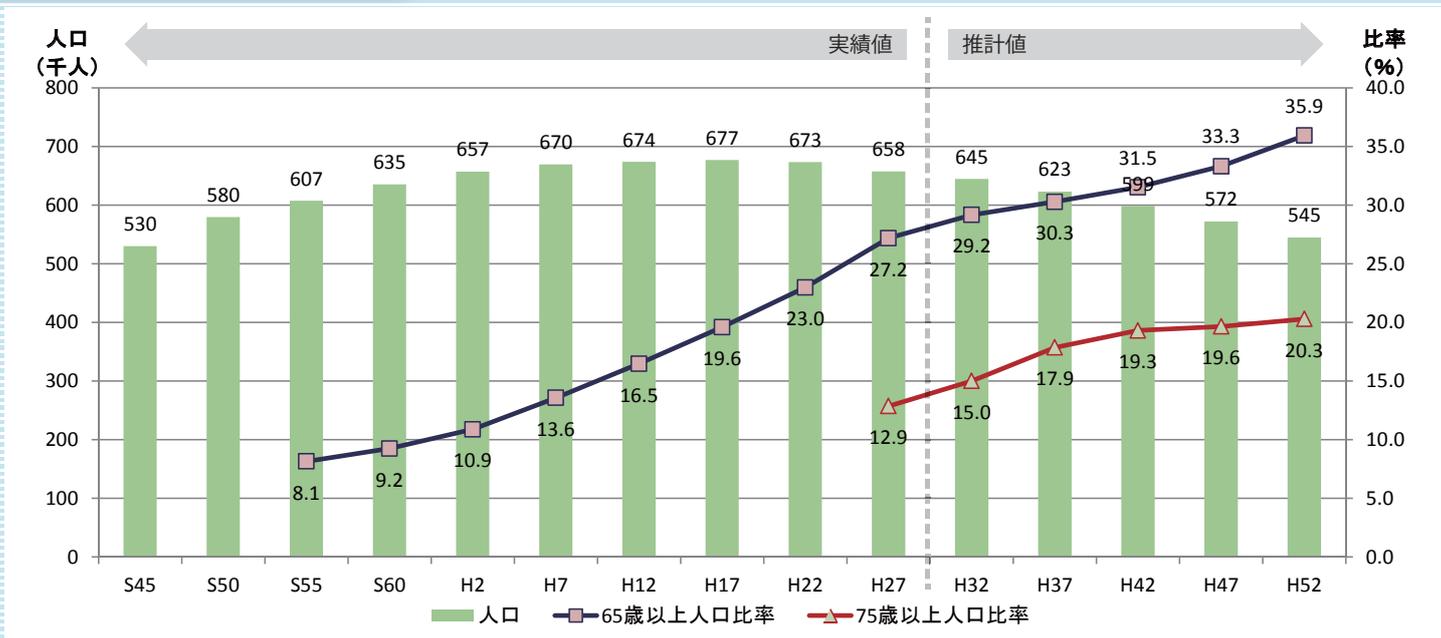


東駿河湾都市圏

特集1 | 交通まちづくりに関する都市圏の現状

人口減少と高齢化

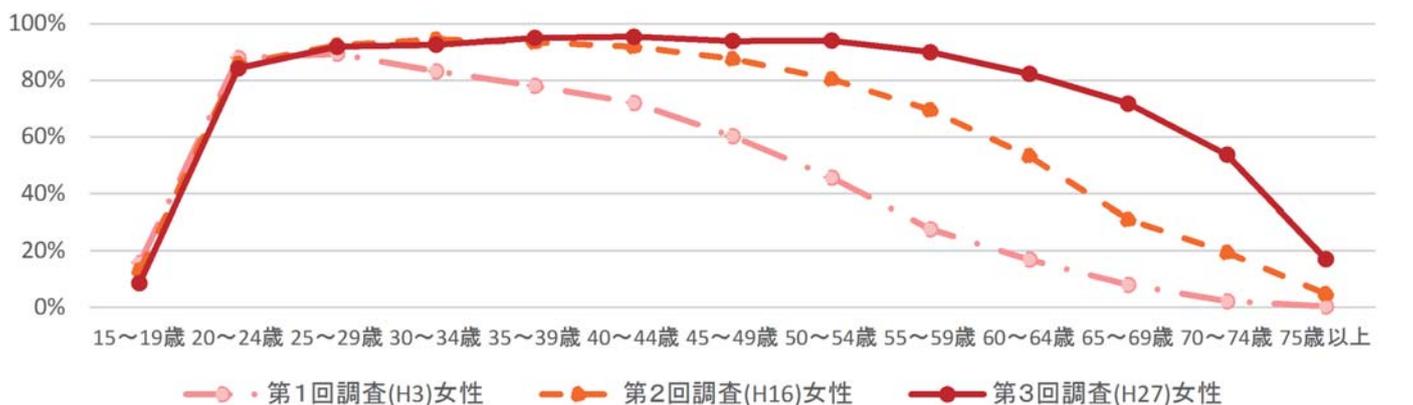
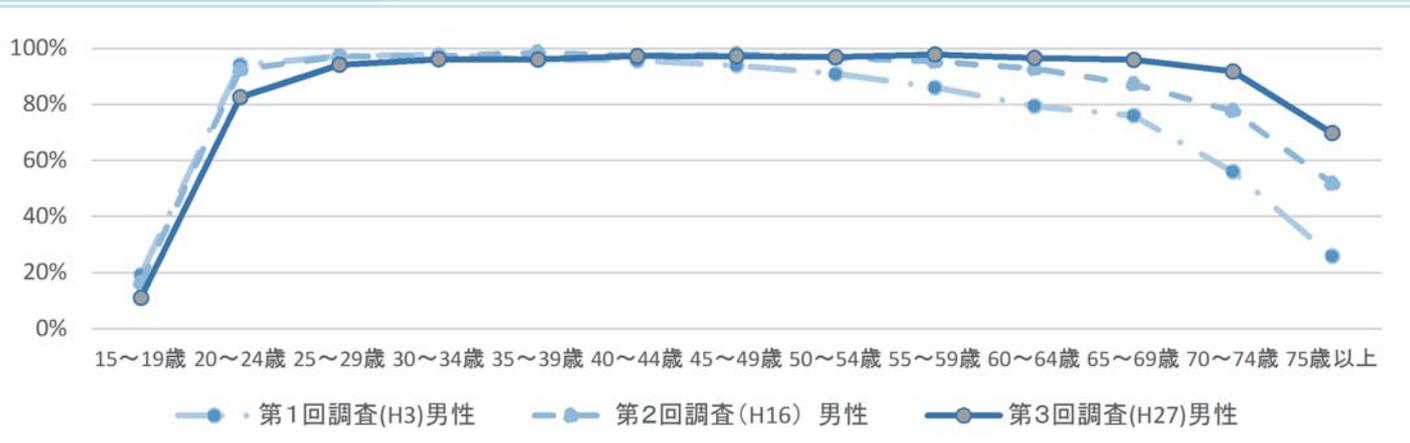
- 平成22年ころから人口は減少傾向に変化し、今後はより急激な人口減少が予測されています。
- 平成27年度の高齢者人口（65歳以上）の割合は約27%であり、20年後には3人に1人が高齢者となることが予測されています。



出典) 平成27年度以前：国勢調査、平成32年以降：国立社会保障・人口問題研究所（H25.3推計値）

運転免許保有率の推移

- 男性の運転免許保有率は65歳以上で増加しており、現在では70～74歳の方の90%以上が運転免許を保有しています。
- 女性の運転免許保有率は50歳以上で増加しており、現在では70～74歳の方の50%以上が運転免許を保有しています。

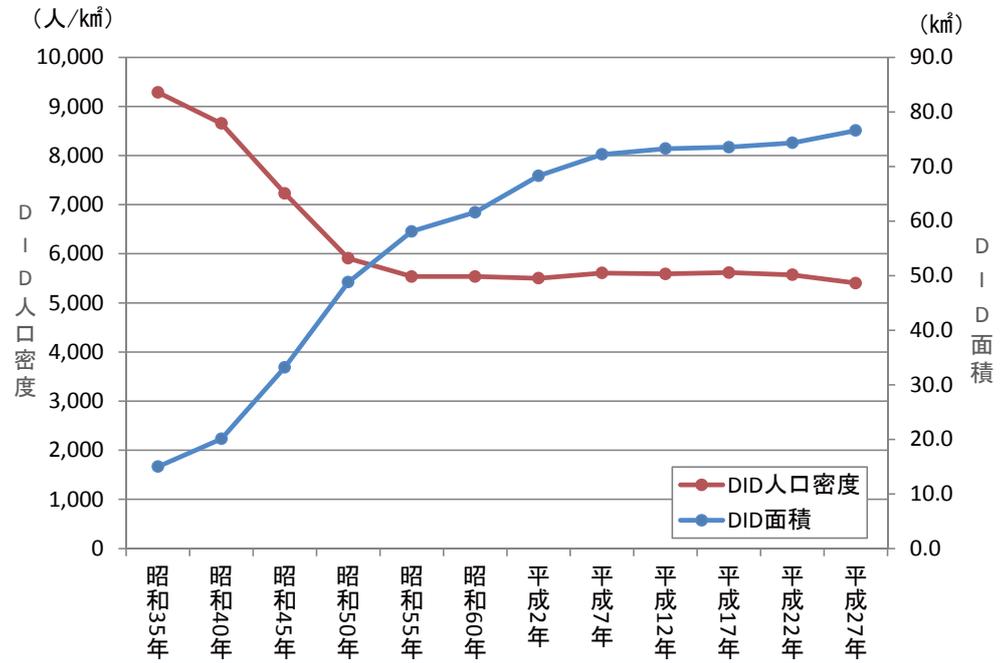
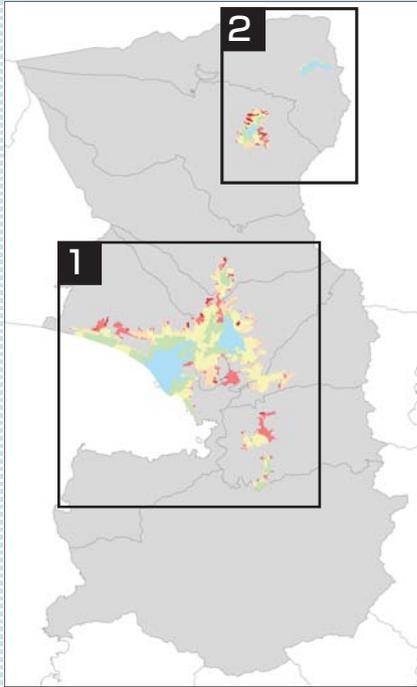


出典) 各回東駿河湾パーソントリップ調査

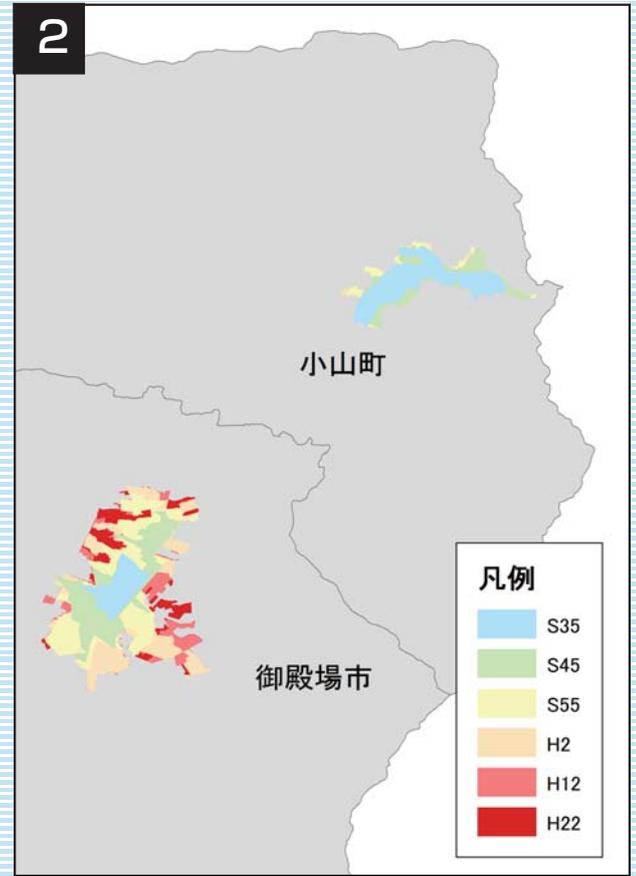
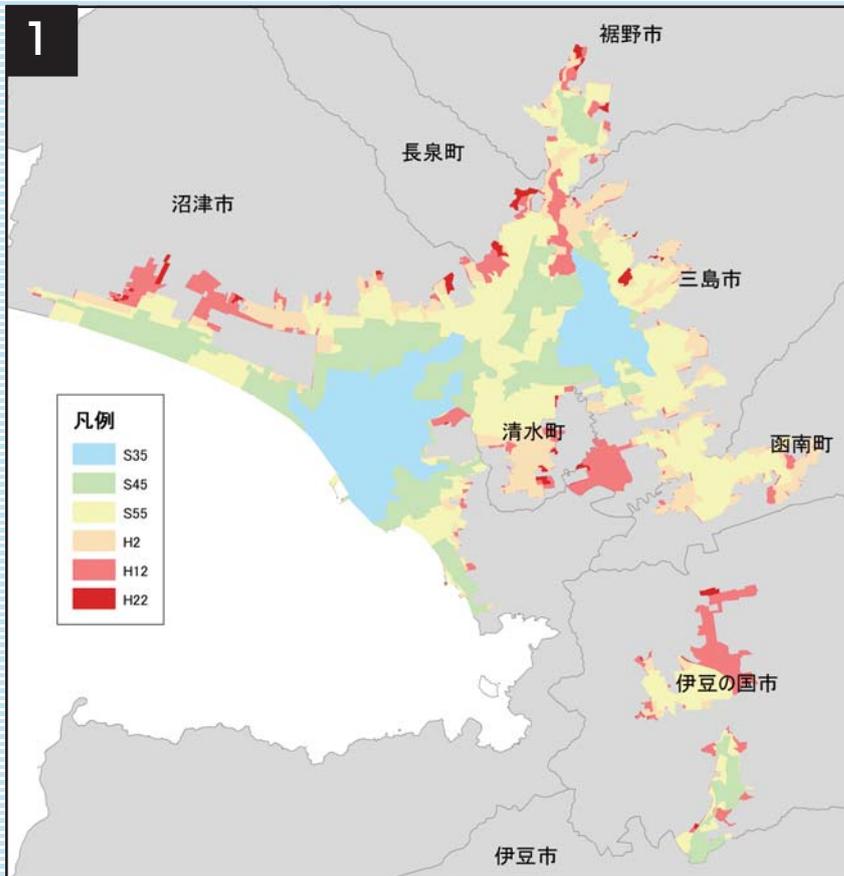
特集1 | 交通まちづくりに関する都市圏の現状

市街地の拡大と低密度化

- 都市圏の人口集中地区面積（DID面積）は近年も拡大を続けており、平成27年には昭和35年の約5倍の80km²近くまで増加しました。
- 人口密度は、昭和35年と比べて半減しており、低密度化によるまちなかのにぎわいの低下が懸念されます。



出典) 国土数値情報



人口集中地区（DID）の変遷図

出典) 国土数値情報

特集2 | 交通実態調査の結果概要

都市圏全体の1日の動き

- 本都市圏の総トリップ数は、約152万トリップ/日です。
- 各調査年次のトリップ数の変化をみると、都市圏内での動きは減少している一方、都市圏外との動きは増加が続いています。

(単位：千トリップ)



トリップとは…

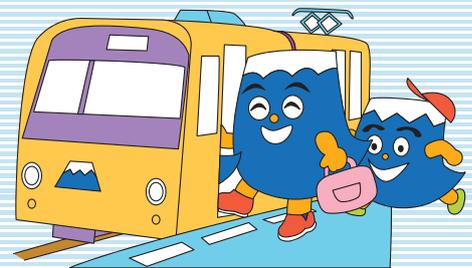
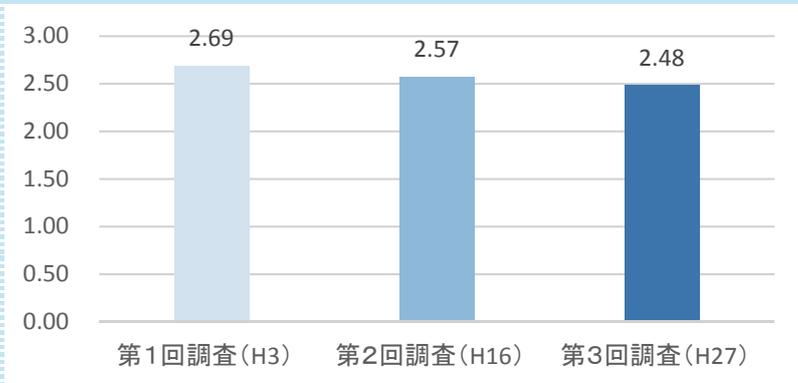
人がある目的を持って出発地から目的地まで移動した場合の1回の動きをトリップといいます。詳しくは7ページをご覧ください。

出典) 各回東駿河湾パーソントリップ調査
 注釈) 第3回調査は、第1回及び第2回と同じ調査圏域(旧戸田村、旧土肥町、旧天城湯ヶ島町、旧中伊豆町を除いた圏域)の居住者の結果

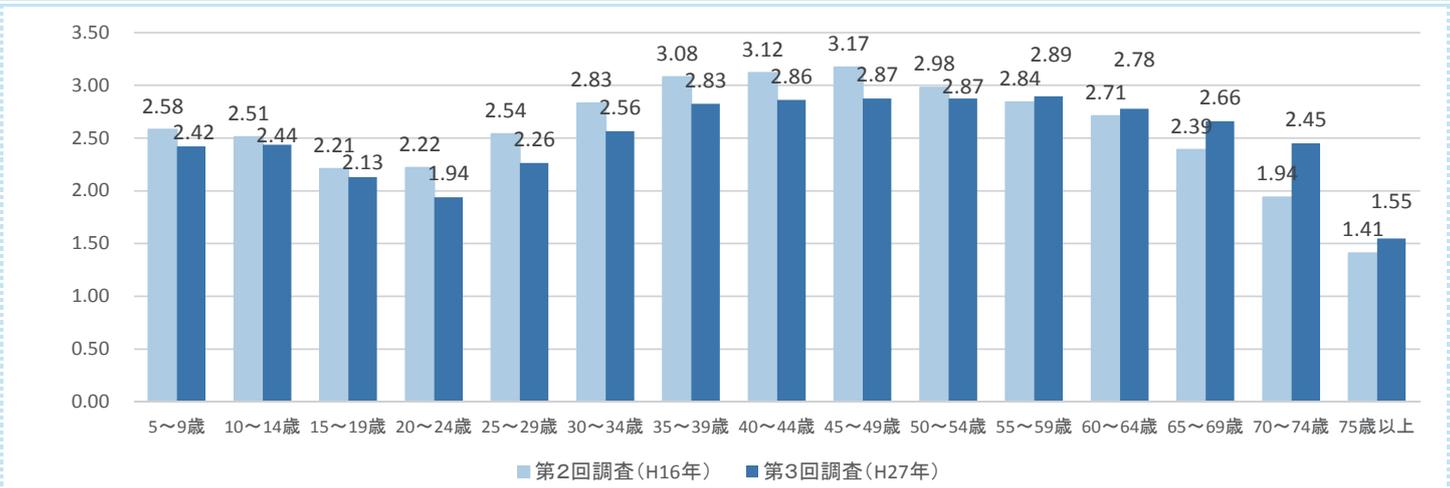
1人あたりの1日の移動回数

- 現在の1人あたりの移動回数は約2.5回/日ですが、第1回調査から減少傾向が続いています。
- 年齢階層別にみると、54歳以下の年齢階層で移動回数が減少していますが、高齢者層では増加傾向となっており、高齢者の動きが活発になっています。

1日の移動回数



1日の移動回数(年齢階級別)

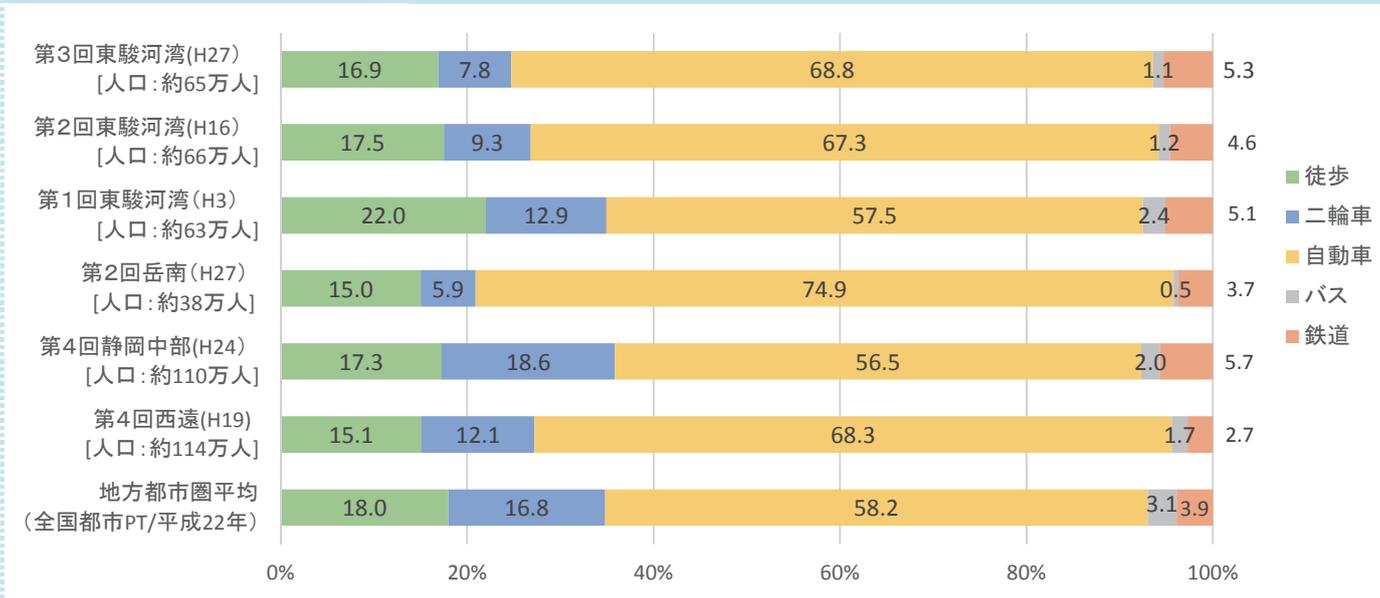


出典) 各回東駿河湾パーソントリップ調査

特集2 | 交通実態調査の結果概要

代表交通手段の利用割合

- 第1回調査から自動車利用の割合が増加し続け、徒歩、二輪車、バス利用は減少し続けています。
- 他の都市圏との比較では、自動車利用は岳南都市圏に次いで高く、本都市圏は自動車への依存度が高い都市圏といえます。



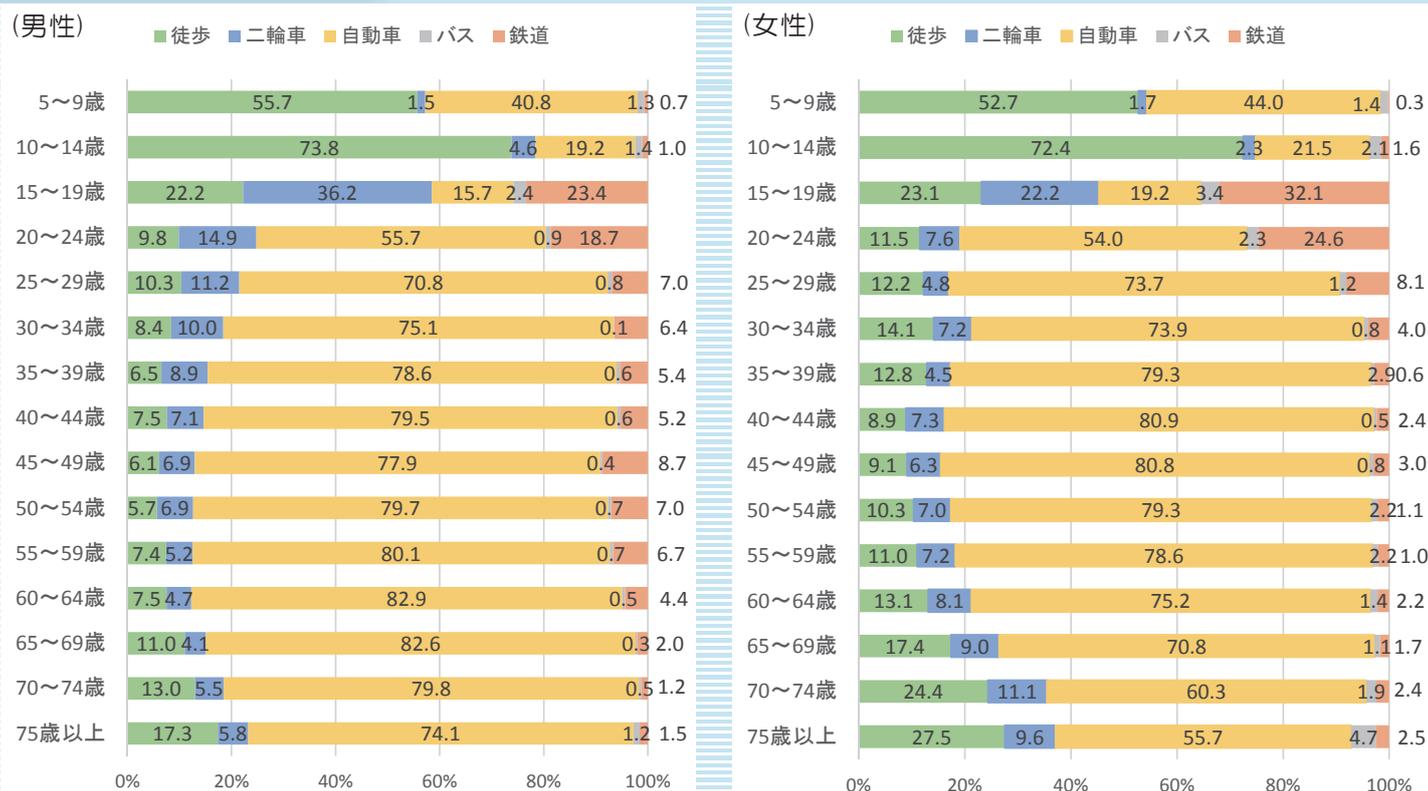
代表交通手段とは…

1回のトリップでいくつかの種類の交通手段を用いている場合に、最も優先度の高い交通手段を代表交通手段といいます。優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪車、徒歩の順としています。

出典) 各回、各都市圏のパーソントリップ調査(代表交通手段の割合)

年齢階層別の利用交通手段特性

- 年齢階層別の利用交通手段をみると、14歳以下では徒歩、15～19歳では男性は二輪車、女性は鉄道利用の割合が高くなっています。
- 20歳以上では自動車利用の割合がどの階層でも50%を超えています。
- 50歳以上は男性女性とも、年齢とともに徒歩の割合が増える傾向です。

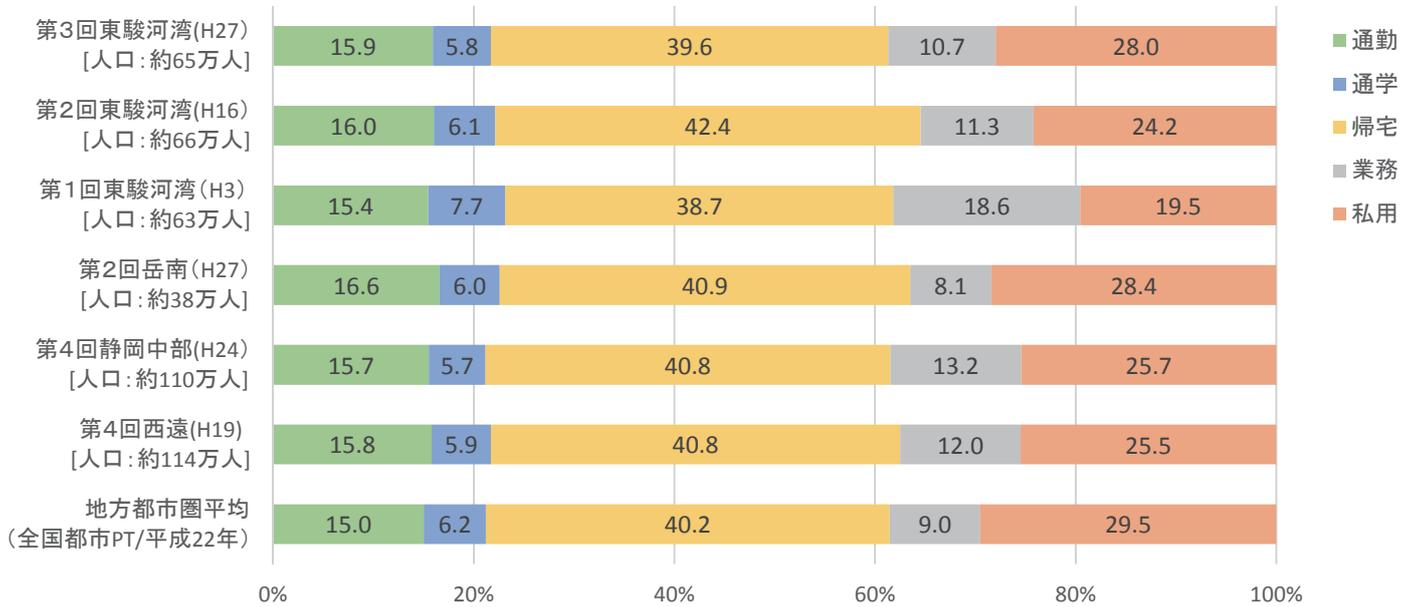


出典) 第3回東駿河湾パーソントリップ調査

特集2 | 交通実態調査の結果概要

移動の目的

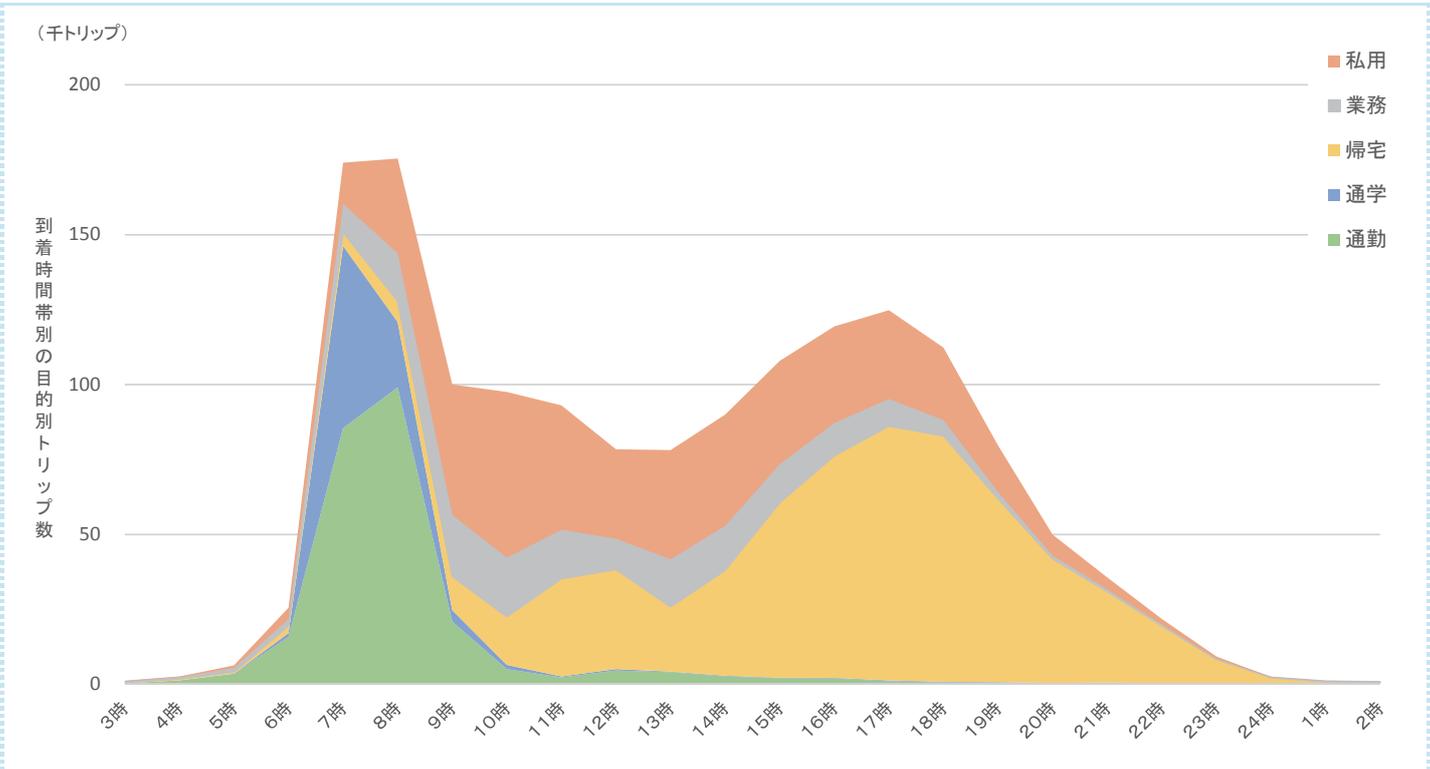
- 第1回調査から通学、業務目的の割合が減少する一方で、私用目的の割合が増加する傾向が続いています。
- 移動目的の割合は、他の都市圏と同程度となっています。



出典) 各回、各都市圏のパーソントリップ調査

時間帯別の移動目的特性

- 時間帯別の移動目的の変化をみると、午前7、8時台のトリップが最も多く、通勤、通学目的のトリップが集中しています。
- 夕方17時に帰宅目的のピークがみられ、昼間時間帯には業務、私用目的のトリップが多くなっています。



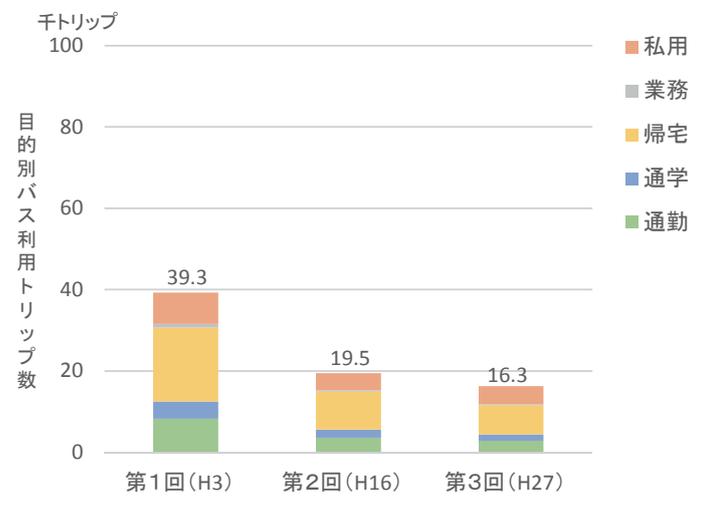
出典) 第3回東駿河湾パーソントリップ調査

特集2 | 交通実態調査の結果概要

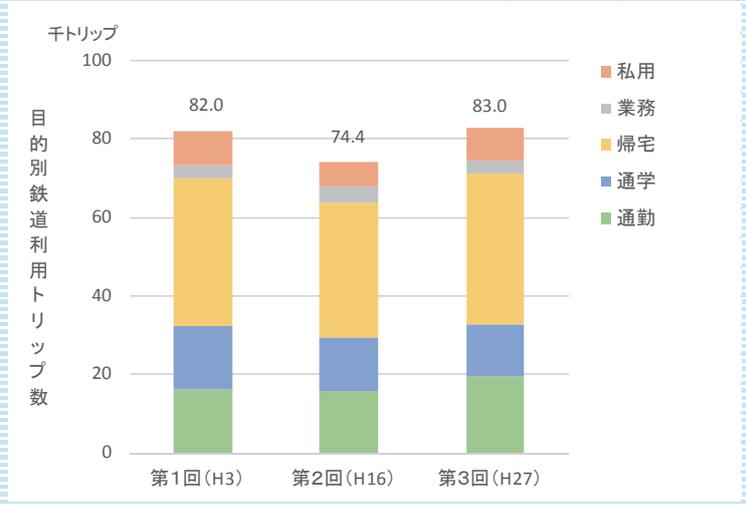
公共交通利用者の推移

- バス利用者は減少傾向が続き、第1回調査の約4割に減少しています。
- 鉄道トリップは第1回調査から第2回調査では減少しましたが、第2回調査から第3回調査では増加に転じています。

■バstriップ数の推移



■鉄道トリップ数の推移

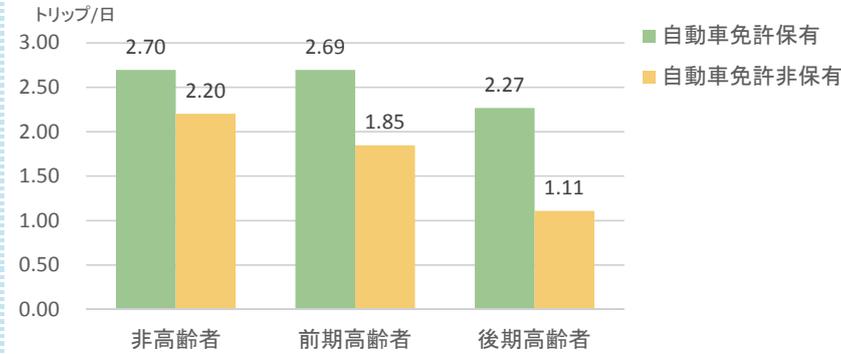


出典) 各回東駿河湾パーソントリップ調査(代表交通手段集計)
 注釈) 第3回東駿河湾調査は、第1回及び第2回と同じ調査圏域の居住者の結果

高齢者の交通特性

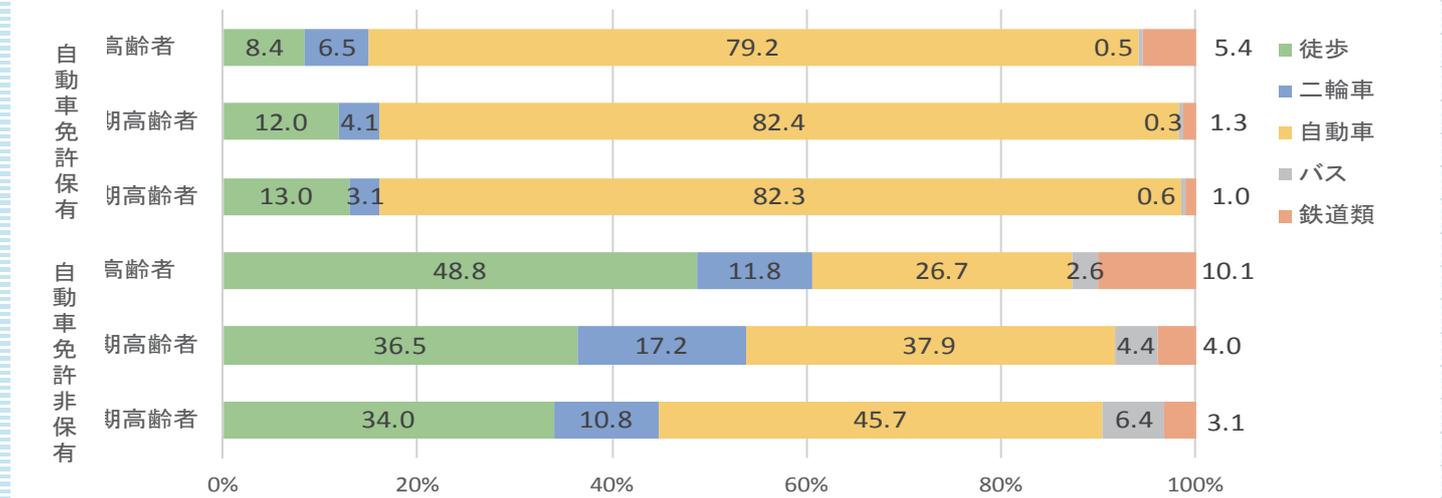
- 年齢とともに1日あたりのトリップ数は減少していますが、この減少幅は運転免許を持たない人がより大きくなっています。
- 運転免許を持っている人は、後期高齢者(75歳以上)でも約8割の自動車利用がみられます。

■1人あたりのトリップ数(前期・後期高齢者別、自転車免許有無別)



■代表交通手段の利用割合(前期・後期高齢者別、自転車免許有無別)

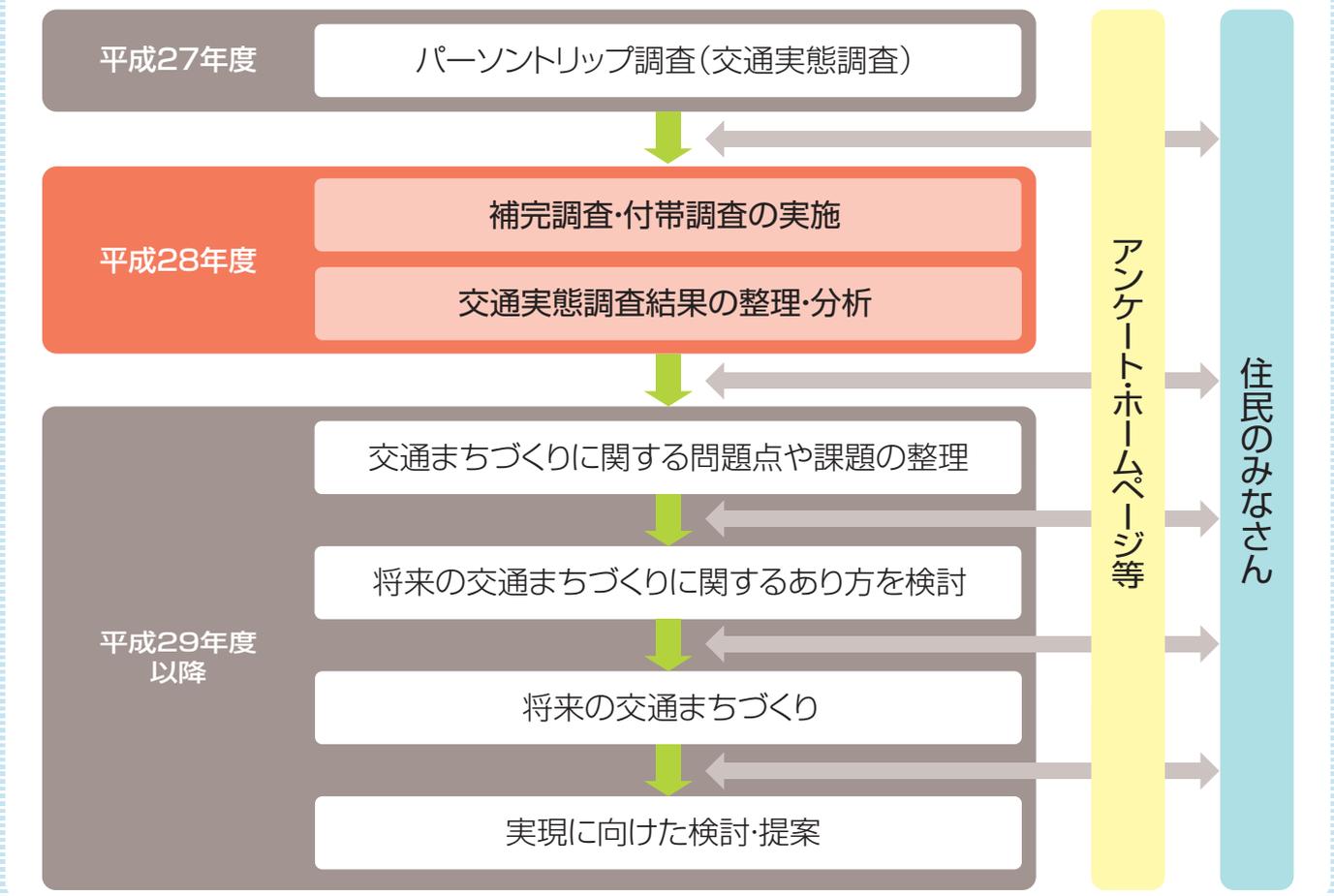
※非高齢者: 5~64歳、前期高齢者: 65~74歳、後期高齢者: 75歳以上



出典) 第3回東駿河湾パーソントリップ調査

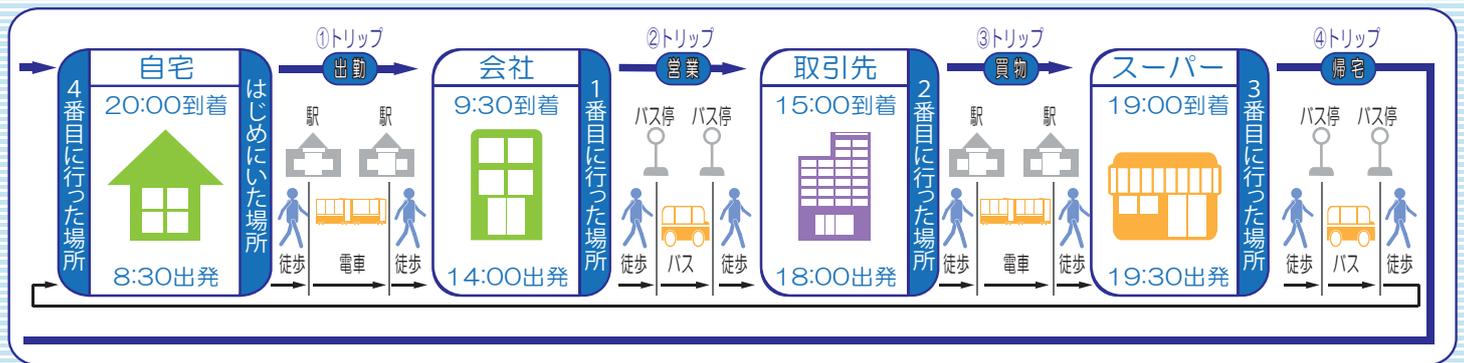
東駿河湾都市圏では、誰もが容易に安心して安全に移動できるよう、将来の総合的な交通まちづくりに向け、平成27年度より調査をスタートし、平成29年度までの3ヶ年をかけて検討を行っていく予定です。

東駿河湾都市圏の交通まちづくりの流れ



トリップとは…

人がある目的を持って出発地から目的地まで移動した場合の1回の動きをトリップといいます。下図は、1日の移動の例を示したものです。この例では、自宅を出てから会社へ行く通勤目的のトリップが1回、会社から取引先へ行く業務目的のトリップが1回、取引先からスーパーへ行く買い物目的のトリップが1回、スーパーから自宅へ行く帰宅目的のトリップが1回という、4回のトリップからなっています。



東駿河湾都市圏総合都市交通計画協議会

(静岡県、沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町)

静岡県交通基盤部都市局都市計画課	TEL 054-221-3204	伊豆市建設部都市計画課	TEL 0558-83-5206
沼津市都市計画部まちづくり政策課	TEL 055-934-4760	伊豆の国市都市整備部都市計画課	TEL 055-948-2909
三島市都市整備部都市計画課	TEL 055-983-2631	函南町建設経済部都市計画課	TEL 055-979-8117
御殿場市都市建設部都市計画課	TEL 0550-82-4240	清水町都市計画課	TEL 055-981-8225
裾野市建設部まちづくり課	TEL 055-995-1829	長泉町都市環境部門建設計画課	TEL 055-989-5520
		小山町経済建設部都市整備課	TEL 0550-76-6104

東駿河湾都市圏総合都市交通計画協議会
<http://www.higashisurugawan-pt.jp>